

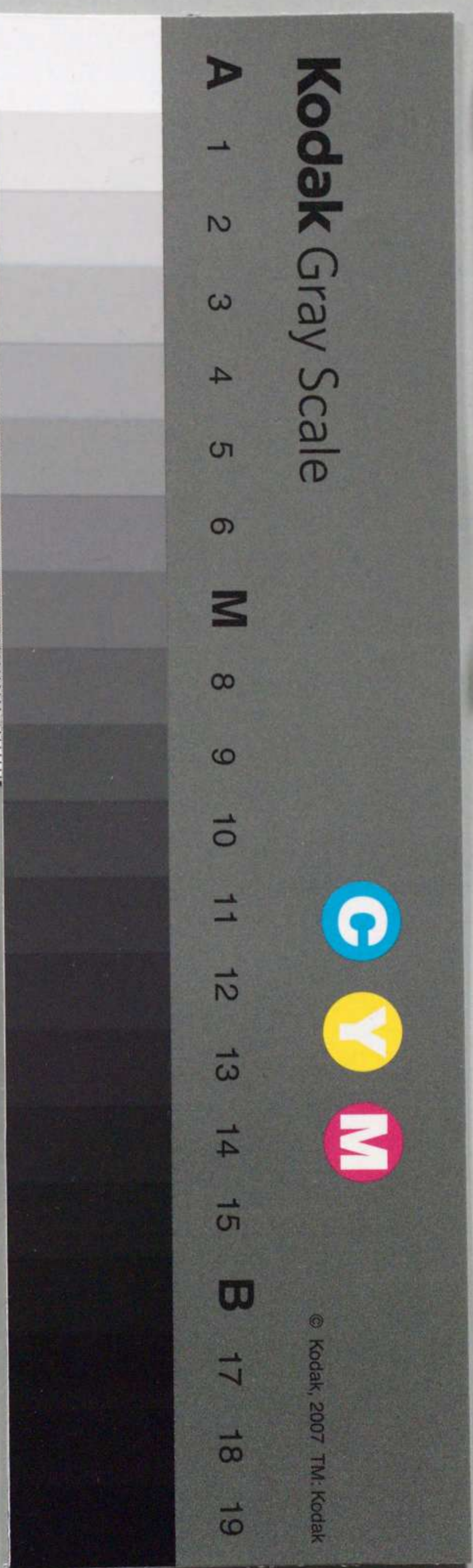
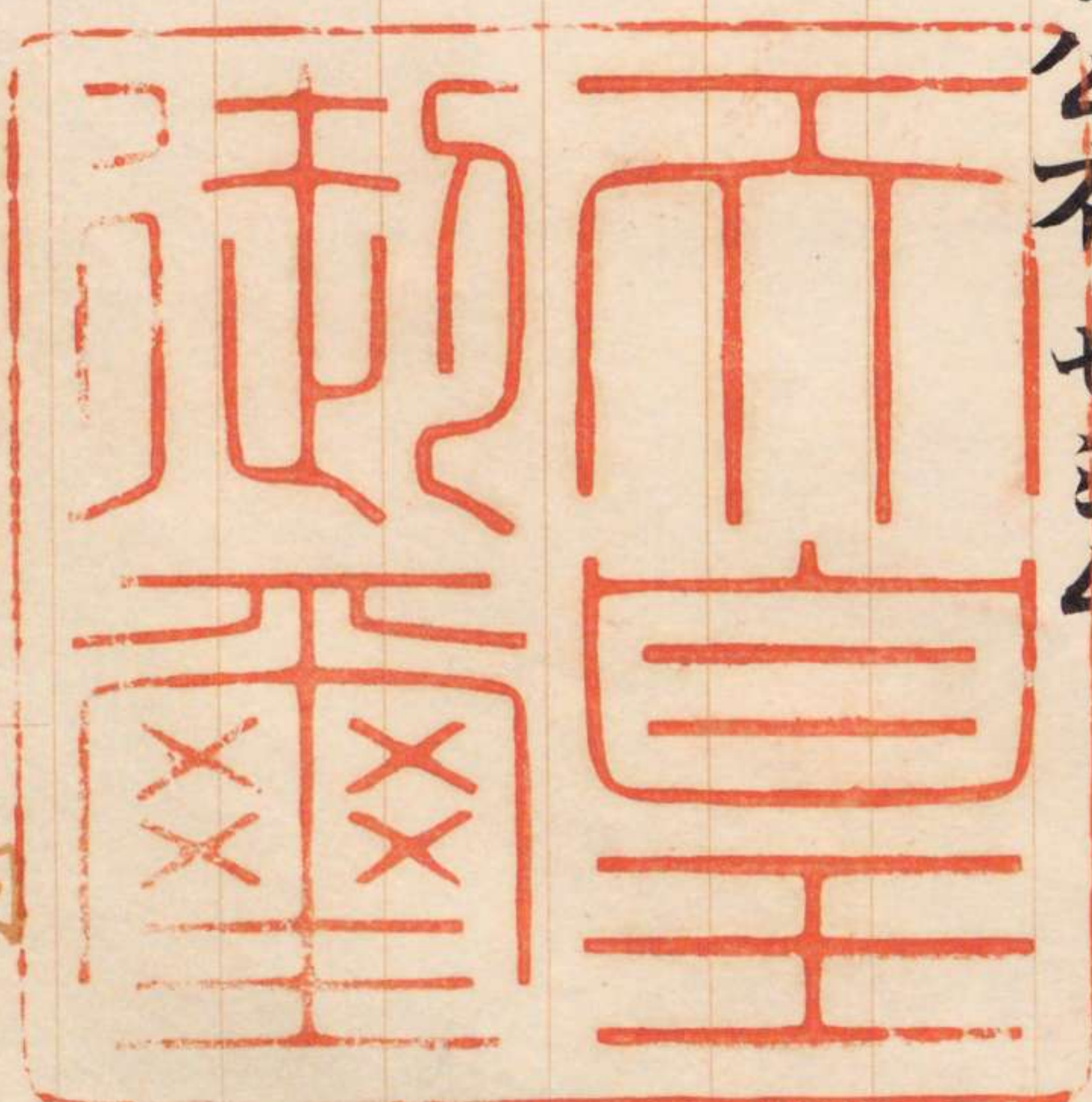
條約第一號



信
分

朕明治二十七年七月十六日大不列顛國倫敦ニ於テ朕力全權委員ト大不列顛國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

睦仁



明治二十七年八月二十七日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
外務大臣 陸奥宗光

通商航海條約

日本國皇帝陛下及大不列顛愛蘭聯合王
國兼印度國皇帝陛下ハ兩國臣民ノ交際
ヲ皇張増進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在ス
ル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シ
テ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ
存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサ
ルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ
基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決

定シ之カ爲メニ日本國皇帝陛下ハ英國
駐劄帝國特命全權公使從二位勲一等子
爵青木周藏ヲ大不列顛愛蘭聯合王國兼
印度國皇帝陛下ハ其ノ外務大臣ガータ
ー勲章ノナントゼー、ライト、オノレーブ
ル、ジヨン、キム、バーレー、伯爵ヲ各其ノ全
權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互
ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナル
ヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版
圖内何レノ所ニ到リ旅行シ或ハ住居ス
ルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體
及財産ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受
スヘシ
該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セム
カ爲メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出ル
コトヲ得ヘク又該裁判所ニ於テ其ノ權
利ヲ伸張シ及防護スルニ付内國臣民ト
同様ニ代言人辯護人及代人ヲ撰擇シ且

使用スルコトヲ得ヘク而シテ右ノ外司
法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ内
國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ
享有スヘシ
住居權旅行權及各種動產ノ所有遺囑又
ハ其ノ他ノ方法ニ因ル所ノ動產ノ相續
並ニ合法ニ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ
處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ
臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ内國
若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同様ノ特

典自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ
關シテハ内國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人
民ニ比シテ多額ノ税金若ハ賦課金ヲ徵
收セラルコトナカルヘシ
兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版
圖内ニ於テ良心ニ關シ完全ナル自由及
法律勅令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行
フノ權利並ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ
埋葬ノ爲メ設置保存セラル所ノ適當
便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ

享有スヘシ

何等ノ名義ヲ以テスルモ該臣民ヲシテ
内國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ納ム
ル所若ハ納ムヘキ所ニ異ナルカ又ハ之
ヨリ多額ノ取立金若ハ租税ヲ納メシム
ルヲ得ス

第二條

西締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方
ノ版圖内ニ住居スル者ハ陸軍海軍護國
軍民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カ

レ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ
一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債
及軍事上ノ賦歛或ハ捐資ヲ免カルヘシ

第三條

兩締盟國ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ
自由アルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版
圖内何レノ所ニ於テモ總テ正業ニ屬ス
ル各種ノ生産物製造品及貨物ノ却賣若
ハ小賣營業ニ從事スルヲ得ヘシ右營業

ニ從事スルニ於テ自身ニ之ヲ為シ或ハ
代理人ヲ以テシ、又ハ一人ニテ之ヲ為シ、
或ハ外國人若ハ内國臣民ト組合ヲ結ビ
テ之ヲ為スモ隨意タルヘク又必要ナル
家屋製造所、倉庫、店舖及附屬構造物ヲ所
有シ或ハ之ヲ借受ケ又ハ使用シ、且住居
及商業ノ為メニ土地ヲ借受クルコトヲ
得但シ内國臣民ト同様其ノ國ノ法律警
察規則及税關規則ヲ遵守スルヲ要ス
該臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ノ各地、諸港

及諸河ニシテ外國通商ノ為メ開カレ又
ハ開カルヘキ場所ヘ船舶及貨物ヲ以テ
自由ニ到ルヲ得且通商及航海ニ關シテ
ハ政府官吏、公吏、一私人或ハ會社若ハ何
等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其ノ利
益ノ為メニ課セラル、所ノ税金或ハ取
立金ハ其ノ性質若ハ名稱ノ如何ヲ論セ
ス内國臣民若ハ最惠國民或ハ人民ノ拂
フ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノ
ヲ拂フコトナク内國臣民若ハ最惠國民

民或ハ人民ト同一ノ取扱ヲ受クヘシ但
シ常ニ各其ノ國ノ法律勅令及規則ニ從
フヘキモノトス

第四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版
圖内ニ於テ住居若ハ商業ノ為メニ供ス
ル家宅製造所倉庫店舗及之ニ屬スル總
テノ附屬構造物ハ侵スヘカラス
右家宅等ヘハ根ニ侵入搜索スヘカラス
又帳簿書類或ハ簿記帳ヲ検査點閱スヘ

カラス但シ内國臣民ニ對シ法律勅令及
規則ヲ以テ制定セル條件及定式ニ據ル
トキハ此ノ限ニ在ラス

第五條

大不列顛國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或
ハ製造ニ係ル物品ハ何レノ地ヨリ日本
國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入シ又日本國
皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係
ル物品ヲ何レノ地ヨリ大不列顛國皇帝
陛下ノ版圖内ニ輸入スルニモ總テ別國

ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課
スル所ノ税ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額
ノ税ヲ課セラル、コトナカルヘシ又締
盟國ノ一方ノ版圖内ヘ別國ノ生産或ハ
製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非
サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ生産或ハ製
造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸
入スルコトヲモ禁止スルコトナカルヘ
シ但シ此ノ末段ノ取極ハ人畜或ハ農業
ニ有用ナル植物ノ安全ヲ保護スルニ必

要ナル衛生上及其ノ他ノ禁止ニハ適用
スヘカラサルモノトス

第六條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方
ノ版圖内ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ他
ノ各外國ヘ輸出スル同種物品ニ對シテ
賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或
ハ之ヨリ多額ノ税金又ハ雜費ヲ賦課ス
ルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ
版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ

輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ
版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ
禁止セサルヘシ

第七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版
圖内ニ在リテ總テノ内地通過税ハ免除
セラルヘク又倉人獎勵金便益及税金拂
戻等ノ事項ニ就テハ全ク内國臣民ト均
等ノ取扱ヲ享クヘシ

第八條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ日本
國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入
セラルヘキ總テノ物品ハ亦大不列顛國
ノ船舶ヲ以テ同様ニ之ヲ右諸港ニ輸入
スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本國
船舶カ右様ノ物品ヲ輸入スルトキ課ス
ヘキ税金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以
テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ税金雜費
等ヲ課セサルヘシ又大不列顛國皇帝陛
下ノ版圖内ノ諸港ヘ大不列顛國ノ船舶

ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘ
キ總テノ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ
同様ニ之ヲ右諸港へ輸入スルコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ大不列顛國船舶カ右
様ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ税金
或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ
更ニ別種或ハ多額ノ税金雜費等ヲ課セ
サルヘシ右相互對等ノ取扱ハ右物品ノ
直ニ原產地ヨリ到ルト其ノ他ノ場所ヨ
リ到ルトヲ問ハス必ス之ヲ施スモノト

ス
輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同様全ク均
等ノ取扱ヲ施スヘシ故ニ締盟國ノ一方ヨリ
適法ニ輸出シ若ハ輸出セラルヘキ物品ハ
其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ルト大不列
顛國船舶ニ依ルトニ拘ハラス又其ノ仕向
先ノ締盟國ノ一港タルト第三國ノ一港
タルトヲ問ハス締盟國ノ版圖内ニ於テ
ハ之ニ課スルニ同一ノ輸出税ヲ以テシ
又之ニ許スニ同一ノ獎勵金並ニ税金拂

戻ノコトヲ以テスヘシ

第九條

政府官吏公吏一私人會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其ノ利益ノ爲メニ課セラル、所ノ噸税港税水先案内料燈臺税檢疫費其ノ他之ト同種ノ税金ハ其ノ性質並ニ名義ノ如何ニ拘ハラス同一ノ條件ヲ以テ同様ノ場合ニ於テ内國船舶一般若ハ最惠國船舶ニ課スルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ハ其ノ版

圖内ノ港ニ於テ之ヲ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ兩國ノ船舶力何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互同一夕ルヘキモノトス

第十條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ノ海港海灣、船渠、川河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ船舶ノ繫留又ハ貨物ノ積卸ニ關スル一切ノ事項ニ就テハ内國船舶ニ許與セサ

ル特典ハ均シク他ノ一方ノ締盟國ノ船
舶ニモ許與セサルヘシ但シ本件ニ關シ
テモ亦兩締盟國ノ目的ハ兩國ノ船舶ニ
對シ互ニ全ク均等ノ取扱ヲ施スニ在ル
モノトス

第十一條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定
スルノ限ニ在ラス各其ノ法律勅令及規
則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然レ
トモ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル

大不列顛國臣民又ハ大不列顛國皇帝陛下
下ノ版圖内ニ於ケル日本國臣民ハ此ノ
事項ニ關シテハ各右法律勅令及規則ヲ
以テ他ノ外國臣民或ハ人民ニ許與シ若
ハ許與セラルヘキ諸權利ヲ享有スヘキ
モノトス

大不列顛國皇帝陛下ノ版圖内ノ二箇以
上ノ港ヘ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ
積載シタル日本國船舶及日本國皇帝陛下
下ノ版圖内ノ二箇以上ノ港ヘ仕向ケタ

ル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル大不列
顛國船舶ハ外國貿易ヲ許サレタル仕向
港ノ一ニ於テ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ
而シテ其ノ最初ニ積載シタル荷物ノ剩
餘ヲ陸揚スル為メ他ノ一港若ハ數港ヘ
進航スルコトヲ得ヘシ但シ常ニ兩國ノ
法律及税關規則ニ從フヘキモノトス
但シ日本國政府ハ本條約ノ期限間是迄
ノ通り大不列顛國船舶カ帝國ノ現開港
場間ニ積荷ヲ運搬スルコトヲ許スコト

ヲ承諾ス尤大阪新瀉及夷港ハ此ノ限ニ
在ラス

第十二條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ
暴風又ハ其ノ他ノ危難ニ遭遇シ避難ノ
為メ已ムヲ得ス他ノ一方ノ海港ニ進入
スルモノハ内國船舶ノ拂フヘキ税金ノ
外何等ノ税金ヲ拂フコトナク其ノ港ニ
於テ更ニ艤装ヲ為シ一切ノ需用品ヲ求
メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船

長ニシテ其ノ費用ヲ支辨スル爲メ其ノ
積荷ノ一部ヲ賣却スルヲ要スル場合ニ
ハ該船長ハ其ノ寄港地ノ規則及税目ヲ
遵守スヘキモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ
他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀬ニ衆上ケ或
ハ難破シタルトキハ地方官ヨリ其ノ事
件ノ生シタル地方ニ在ル所ノ總領事領
事、副領事又ハ代辦領事ヘ其ノ旨ヲ通知
スヘシ但シ若其ノ地方ニ領事官ノ駐在

セサルトキハ最近地方ノ總領事、領事、副
領事又ハ代辦領事ヘ通知スヘシ

日本國皇帝陛下ノ領海ニテ難破シ若ハ
海岸ニ衆上ケタル大不列顛國船舶ノ救
助ニ關スル一切ノ手續ハ日本國法律、勅
令及規則ニ從テ之ヲ爲スヘク又相互ノ
主義ニ基キ大不列顛國皇帝陛下ノ領海
ニテ難破シ若ハ海岸ニ衆上ケタル日本
船舶ニ關スル一切ノ救助ノ處分ハ大不
列顛國法律、勅令及規則ニ從テ之ヲ爲ス

ヘシ

右難破若ハ乗上ケタル船舶竝ニ其ノ器具及其ノ他一切ノ附屬品及該船舶ヨリ救上ケタル貨物竝ニ商品及右等ノ諸物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ又ハ之ヲ賣却シタルトキハ其ノ收得金竝ニ該遭難船内ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主或ハ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ内國

法律ニ定メタル期限内ニ當該總領事領事副領事或ハ代辦領事ヨリ請求アレハ之ヲ引渡スヘシ而シテ右領事官持主或ハ代理人ハ内國船舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費竝ニ難破救助費及其ノ他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス

難破船ヨリ救上ケタル貨物及商品ハ消費ノ為メニ通關手續ヲ為スモノニ非サレハ一切ノ關稅ヲ免除スヘシ但シ消費

ノ爲メニ賣捌ク場合ニハ普通ノ關稅ヲ
納ムルヲ要スルモノトス

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニ
シテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ淺瀬ニ衆
上ケ或ハ難破シタルトキ其ノ持主、船長
若ハ他ノ持主代理人不在ノ場合ニハ當
該總領事、領事、副領事若ハ代辦領事ハ其
ノ自國臣民ニ必要ノ補助ヲ與フル爲メ
職權上ノ助力ヲ爲スヲ許サルヘキモノ
トス此ノ規定ハ持主、船長若ハ他ノ代理

人現ニ其ノ場ニ在ルトキト雖モ右様ノ
補助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適
用スヘキモノトス

第十三條

本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ從ヒ日
本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ
之ヲ日本國船舶ト見認メ又大不列顛國
ノ國法ニ從ヒ大不列顛國船舶ト見做サ
ルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ大不列顛國船
舶ト見認ムヘシ

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ駐在スル他
ノ一方ノ總領事領事副領事及代辦領事
ハ自國ノ脱船人ヲ取戻ス為メ法律ノ許
ス所ノ補助ハ之ヲ地方官ヨリ受クヘキ
モノトス
但シ海員カ其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脱
船シタルトキハ此ノ規定ヲ適用セサル
モノト知ルヘシ

第十五條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲ他
ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク
主意ヲ有スルニ因リ通商及航海ニ關ス
ル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國
ノ政府船舶臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ
或ハ將來許與スヘキ一切ノ特典殊遇若
ハ免除ハ他ノ一方ノ政府船舶臣民或ハ
人民ニモ即時ニ且條件ヲ附セスシテ之
ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約
定ス

第十六條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港都府
及其ノ他ノ場所ニ總領事領事副領事領
事代及代辦領事ヲ置クコトヲ得ヘシ但
シ領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラ
サル場所ハ此ノ限ニ在ラス
然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シ
之ヲ適用スルニ非サレハ一方ノ締盟國
ニ對シテ之ヲ適用スルヲ得サルモノト
ス

總領事領事
一切ノ職
在留國ニ於
與シ或ハ將來
典特權及免除
ノトス
事代及代辦領事ハ
ルコトヲ得且其ノ
國ノ領事官ニ現ニ許
與セラルヘキ一切ノ特
典特權及免除
ヲ之ヲ享有スヘキモ
ノトス

第十七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版
圖内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履
行スルトキハ專賣特許商標及意匠ニ關

第十六條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港都府
及其ノ他ノ場所ニ總領事領事副領事領
事代及代辦領事ヲ置クコトヲ得ヘシ但
シ領事官ノ駐在ニ認許スルニ便宜ナラ
サル場所ハ此ノ限ニ在ラス
然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シ
之ヲ適用スルハ一方ノ締盟國
ニ對シテ之
ス

總領事領事副領事領事代及代辦領事ハ
一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得且其ノ
在留國ニ於テ最惠國ノ領事官ニ現ニ許
與シ或ハ將來許與セラルヘキ一切ノ特
典特權及免除ハ總テ之ヲ享有スヘキモ
ノトス

第十七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版
圖内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履
行スルトキハ專賣特許商標及意匠ニ關

シ内國臣民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

第十八條

大不列顛國政府ハ同政府ニ關スル限ハ左ノ取極ニ同意スヘシ

日本國ニ在ル各外國人居留地ハ全ク其ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ爾後日本國地方組織ノ一部トナルヘシ

然ル上ハ日本國當該官吏ハ之ニ關シテ其ノ地方施政上ノ責任義務ヲ悉皆負擔スヘシ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ

屬スル共有資金若ハ財産アルトキハ之ヲ右日本國官吏ヘ引渡スヘキモノトス尤前記外國人居留地ヲ日本國市區ニ編入ノ場合ニハ該居留地内ニテ現ニ因テ以テ財産ヲ所持スル所ノ現在永代借地券ハ有效ノモノト確認セラルヘシ而シテ右財産ニ對シテハ右借地券ニ載セタル條件ノ外ハ別ニ何等ノ條件ヲモ附セサルヘシ但シ借地券中ニ領事官トアルハ總テ日本國當該官吏ヲ以テ之ニ代ユ

ヘキコト、知ルヘシ

外國人居留地公共ノ目的ノ爲メニ無借
料ニテ既ニ貸與シタル各地所ハ永代ニ
保存セラルヘシ且該地所ニシテ最初貸
與シタルトキノ目的ニ使用セラル、限
ハ總テノ租税及徵收金ヲ免スヘシ但シ
土地收用權ニハ從フヘキモノトス

第十九條

本條約ノ規定ハ法律ノ許ス限ハ大不列
顛國皇帝陛下ノ殖民地並ニ其ノ海外領

地ニ適用スヘシ但シ左ニ列記スル所ハ
此ノ限ニ在ラス

印度

加奈太領地

ニユー、フワウランド

喜望峯殖民地

ナタル

ニユー、サウス、ウエールス

ヴヰケトリヤ

クヰンズランド

タスマニヤ

南濠太利

西濠太利

ニュー・ジーンランド

然レトモ東京駐劄大不列顛國皇帝陛下
ノ代表者ヨリ本條約批准交換ノ日ヨリ
二箇年内ニ本條約ノ規定ヲ前記ノ殖民
地若ハ領地ノ孰レヘナリトモ適用スヘキ
旨ヲ通知シタルトキハ之ヲ適用スヘキ
モノトス

第二十條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ兩締盟國間
ニ現存スル嘉永七年八月二十三日即千
八百五十四年十月十四日締結ノ約定慶
應二年五月十三日即千八百六十六年六
月二十五日締結ノ改稅約定安政五年七
月十八日即千八百五十八年八月二十六
日締結ノ修好通商條約及之ニ附屬スル
一切ノ諸約定ニ代ハルヘキモノトス而シ
テ該條約及諸約定ハ右期日ヨリ總テ無

效ニ歸シ隨テ大不列顛國カ日本帝國ニ
於テ執行シタル裁判權及該權ニ屬シ又
ハ其ノ一部トシテ大不列顛國臣民カ享
有セシ所ノ特典特權及免除ハ本條約實
施ノ日ヨリ別ニ通知ヲサス全然消滅
ニ歸シタルモノトス而シテ此等ノ裁判
管轄權ハ本條約實施後ニ於テハ日本帝
國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十一條

本條約ハ調印ノ日ヨリ少クモ五箇年ノ

後迄ハ實施セラレサルモノトス而シテ
日本帝國政府ニ於テ本條約ヲ實施セン
ト欲スル旨ヲ大不列顛國政府ニ通知シ
タル後一箇年ヲ經ルニ非サレハ實施セ
ラレサルモノトス尤此ノ通知ハ調印ノ
日ヨリ四箇年ヲ經タル後何時ニテモ爲
スコトヲ得ヘシ又本條約ハ其ノ實施ノ
日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノト
ス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ

十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリト
モ本條約ヲ終了セント欲スル旨ヲ他ノ
一方へ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シ
テ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經
過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘ
キモノトス

第二十二條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其
ノ批准ハ本日ヨリ六箇月以内ニ可成速
ニ東京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調
印スルモノナリ
明治二十七年七月十六日倫敦ニ於テ本
書二通ヲ作ル

青木周藏 印
キムバーレー 印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝阼ヲ踐ミタ
ル日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ
宣示ス

朕帝國ト大不列顛國トノ交際ヲ永久親
睦ナラシメンコトヲ欲シ明治二十七年
七月十六日倫敦ニ於テ兩國全權委員ノ
記名調印シタル通商航海條約ノ各條目
ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕力意
ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ

嘉納批准ス

神武天皇紀元二千五百五十四年明治二十七年八月二十四日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣陸奥宗光 印

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及大不列顛愛蘭國兼印度國皇帝陛下ノ政府ハ本日調印セシ通商航海條約ノ外ニ雙方ニ關スル特別ノ事項ヲ規定スルコト兩國ノ利益上便宜ナルヲ以テ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

第一 本日調印シタル通商航海條約批准交換後一箇月ノ後ハ本書附屬輸入税目ハ兩締盟國間ニ現存スル

所ノ安政五年條約ノ有效ナル間ハ
其ノ第二十三條ノ規定ニ準據シ又
右安政五年條約ノ無効ニ歸シタル
後ハ本日調印シタル條約第五條及
第十五條ノ規定ニ準據シ大不列顛
國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産若ハ製
造ニ係ル物品ニシテ該税目ニ掲ク
ルモノヲ日本國へ輸入スル場合ニ
之ヲ適用スルモノトス但シ日本國政
府ニ於テ純良ナラサル藥材製藥食

物若ハ飲料猥褻ノ印刷物圖書書籍
紙牌石版若ハ其ノ他ノ彫刻畫寫真
及其ノ他總テ猥褻ノ物品日本帝國
ノ專賣特別商標及版權ニ關スル法
律ニ違背スル物品又ハ其ノ他衛生
公安若ハ風俗ニ關シ危害ヲ生スヘ
キ物品ノ輸入ヲ制限シ若ハ禁止ス
ルノ權利ハ本議定書又ハ其ノ附屬
税目ノ爲メ制限セラル、コトナカ
ルヘキモノトス

該税目ニ定メタル從價税ハ之ヲ實行シ得ヘシト認メラル、限ハ本議定書ノ日附ヨリ六箇月間ニ兩國政府間ニ締結セラルヘキ追加條約ヲ以テ從量税ニ換算スヘシ本議定書ノ日附ヨリ前六箇月間ニ於ケル日本國税關報告ニ載セタル平均價格ニ仕入地、產出地若ハ製造地ヨリ陸揚港ニ至ル迄ノ保險料及運賃ヲ加算シ又手数料アルトキハ之ヲモ加

算シタルモノヲ以テ右換算ノ基礎トナスヘシ若又追加條約ニシテ前記税目ヲ實施スル為メニ定メタル期限ヲ終ル迄ニ實施セラレサル場合ニハ其ノ間ハ前記ノ税目ノ末尾ニ掲ケタル規定ニ從ヒ從價税ヲ徵收スヘシ

右税目ニ掲ケサル物品ニ對シテハ前項ニ記載セシ期日ヨリ前項ニ記載セシ如ク各安政五年條約第二十

三條及本日調印シタル條約第五條
及第十五條ノ規定ニ準據シ日本國
ニテ其ノ時現ニ行ハル、所ノ普通
國定稅則ヲ適用スルモノトス
大不列顛國臣民カ日本國ニ輸入ス
ル貨物及商品ニ對シ現今日本國ニ
於テ實施スル所ノ輸入稅目ハ前項
ニ記載セシ各稅目實施ノ日ヨリ無
效ニ歸スヘキモノトス
尤此ノ外總テノコトニ付テハ現行

條約ノ規定ハ本日調印シタル通商
航海條約ノ實施セラル、ニ至ル迄
ハ無條件ニテ保續セラルヘキモノ
トス

第二 日本國政府ハ大不列顛國臣民
ニ對シ内國ヲ開ク迄ハ現行ノ旅券
方法ヲ擴張スルコトニ同意ス即大
不列顛國臣民カ在東京同國公使若
ハ日本國開港場ニ駐在スル大不列
顛國領事官ヨリノ紹介證書ヲ所持

シテ出願スルニ於テハ十二箇月以
内ノ期限間國內何レノ地ヘモ到ル
コトヲ得ヘキ旅券ヲ東京外務省若
ハ開港場所在地方長官ヨリ交附ス
ヘシ但シ帝國ノ内地ニ旅行スル大
不列顛國臣民ニ關スル現行規定ハ
之ヲ保續スヘキモノト知ルヘシ

第三 日本國政府ハ日本國ニ於ケル
大不列顛國領事裁判權ノ廢止ニ先
夕チ工業ノ所有權及版圖ノ保護ニ

關スル列國同盟條約ニ加入スヘキ
コトヲ約ス

第四 若日本國ニ於テ何時ニテモ其
ノ精糖ノ產出若ハ製造ニ對シ増税
ヲ課スルコトヲ必要ト見做ストキ
ハ其ノ増加セシ内國税ヲ課スル間
ハ日本國ヘ輸入スル所ノ大不列顛
國ノ精糖ニ對シ前記内國税ト同額
ニ増加スル所ノ關稅ヲ課スルコト
ヲ得ヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ承

諾ス

但シ右ニ關シ大不列顛國ノ精糖ハ
常ニ最惠國ノ產出若ハ製造ニ係ル
精糖ト同一ノ取扱ヲ享ケヘキモノ
トス

第五

左ニ記名スル所ノ全權委員ハ
本議定書ハ本日調印シタル通商航
海條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提
供シ而シテ右條約批准セラルト
キハ本議定書ニ掲載スル所ノ諸約

定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ
亦兩締盟國政府ノ可認セシモノト
看做スヘキコトヲ約ス

又本議定書ハ前記條約ノ無効ニ歸
スルト同時ニ終了スヘキコトヲ約
ス

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ
記名調印スルモノナリ
明治二十七年七月十六日倫敦ニ於
テ本書二通ヲ作ル

青木周藏印
キムバーレー
印

附屬税目

品目

從價税率

護謨製品

百三付 十

セメント

同 五

綿織絲類

同 八

綿織物類純綿ト麻亞麻若ハ

毛絲又ハ他ノ交セモノアルトラ

問ハス但シ綿ノ重ナル

同 十

窓玻璃片(尋常ノ)

甲 無色及無著色ノ

同 八

乙 有色、著色、若、砂磨、

帽子(氈帽トモ)

乾藍

塊鐵及塊鋼

道鐵及道鋼

條鐵、條鋼、竿鐵、竿鋼、板鐵、

板鋼

葉鐵(チンドプレート)

電鍍板鐵、板鋼

筒鐵、筒鋼、管鐵、管鋼

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

十

十

十

五

五

五

七

二

十

十

鉛(塊錠ノ別ナク)

靴底皮

他ノ熟皮

麻織絲類

麻織物類

水銀

乳膏、乳粉

鐵釘類

無味香油

色油

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

十五

十五

十

八

十

五

五

十

十

十

印刷料紙

精糖

硝石

鐵螺旋釘及鐵牝牡螺旋類

絹綿繻子

錫(塊錠ノ別ナク)

葉錫(チンプレートツ)

無味香蠟

電線

鐵線鋼線及徑一因四分ノ

同

同

同

同

同

同

同

同

同

十

十

五

十

十五

五

十

五

五

ヲ超ヘサル細竿鐵細竿鋼

毛織絲類

毛織物類純毛ト他ノ交セモ

ノアルトヲ問ハス但シ毛ノ重ナル

其他本税目ニ掲定セサル織

絲類

亞鉛(塊錠ノ別ナク)

板亞鉛

同

同

同

同

同

同

同

同

十

八

十

十

十

十

五

七

從價税算定ノ規定

此ノ税目ニ從ヒ輸入物品ニ課スヘ

キ從價税ハ其ノ物品ノ仕入地、産出
地、若ハ製造地ニ於ケル原價ニ其ノ
仕入地、産出地、若ハ製造地ヨリ陸揚
港ニ至ル迄ノ保険料運賃ヲ加算シ
又手数料アルトキハ之ヲモ加算シ
テ算定スヘシ